



繪本孝感傳

五

~ 13  
3581  
5



門へ13  
號3581  
卷5



孝感傳卷之五

目錄

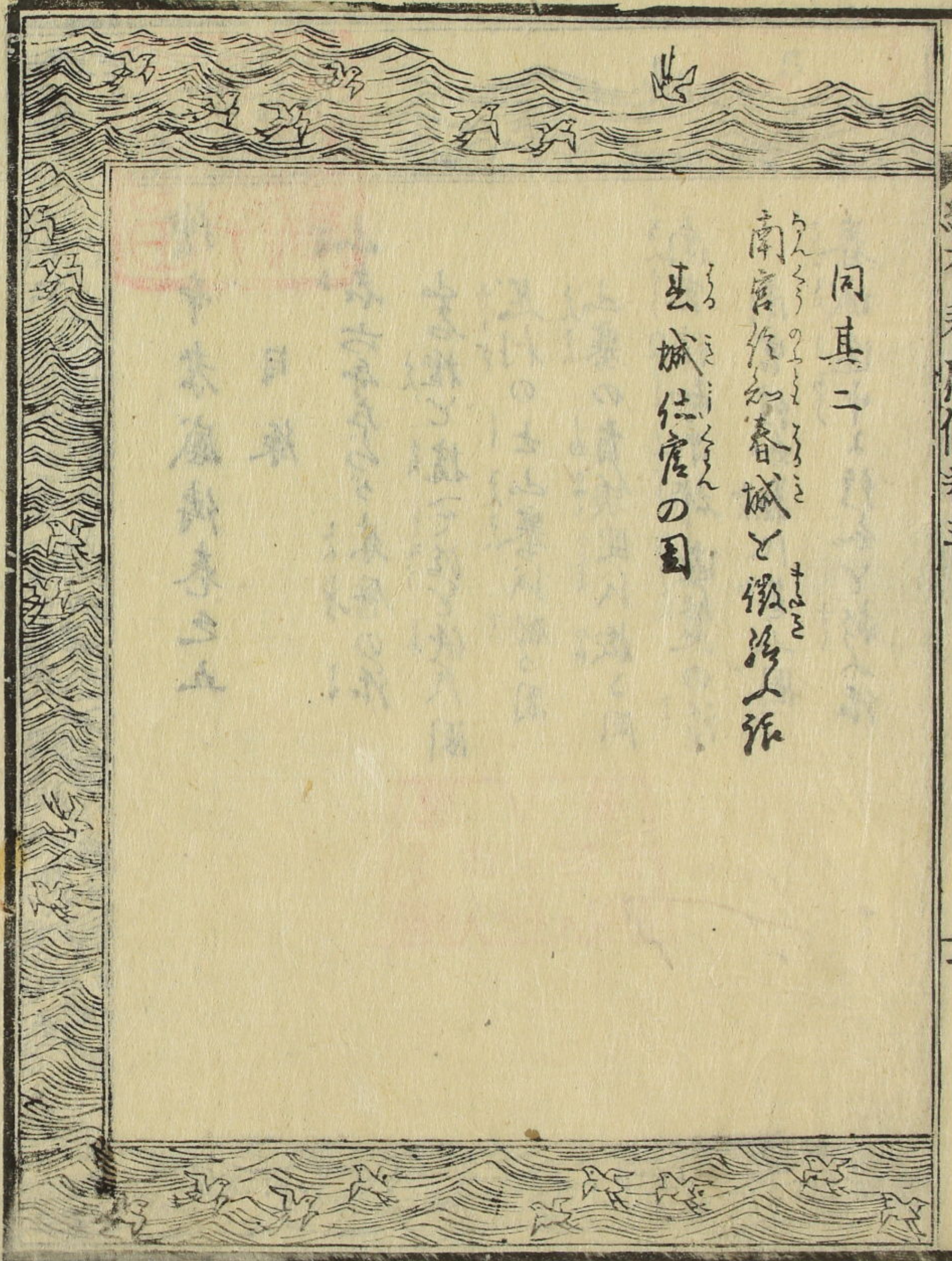
衣六命なるが来歴の活  
名檀と據つて法を依る圖  
足利の土山寨に於る圖  
山寨の首領因に於る圖  
南宮信如京都遊覧の活  
南宮信如秘に昌久圖  
春城途中の行状と秘入活

早稲田大學  
昭和35.1.22  
藏書

同其二

南宮の如春城と假令入派

長城は唐の國



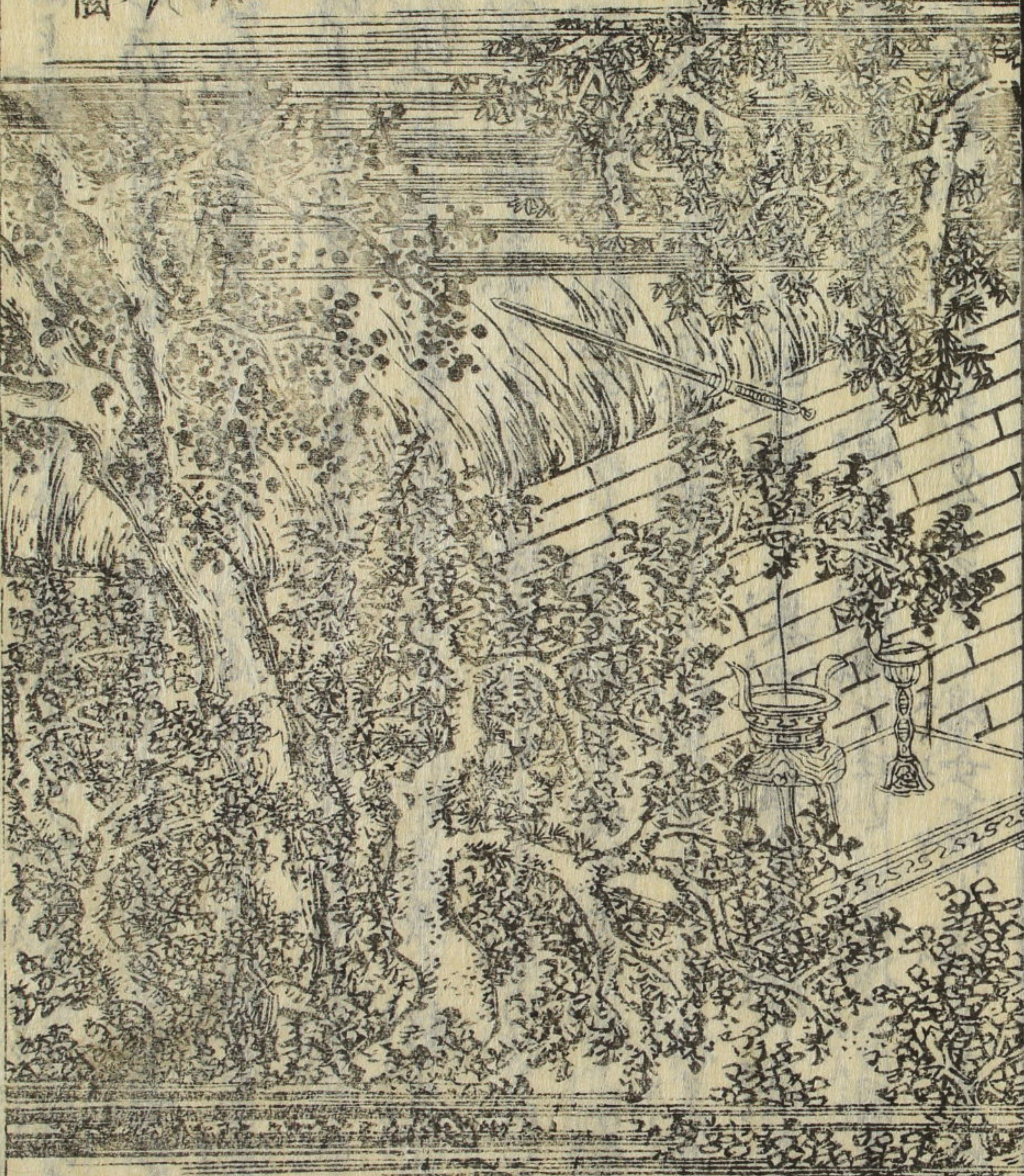
繪本孝慈傳卷之五

山名古所た清の末歴の結

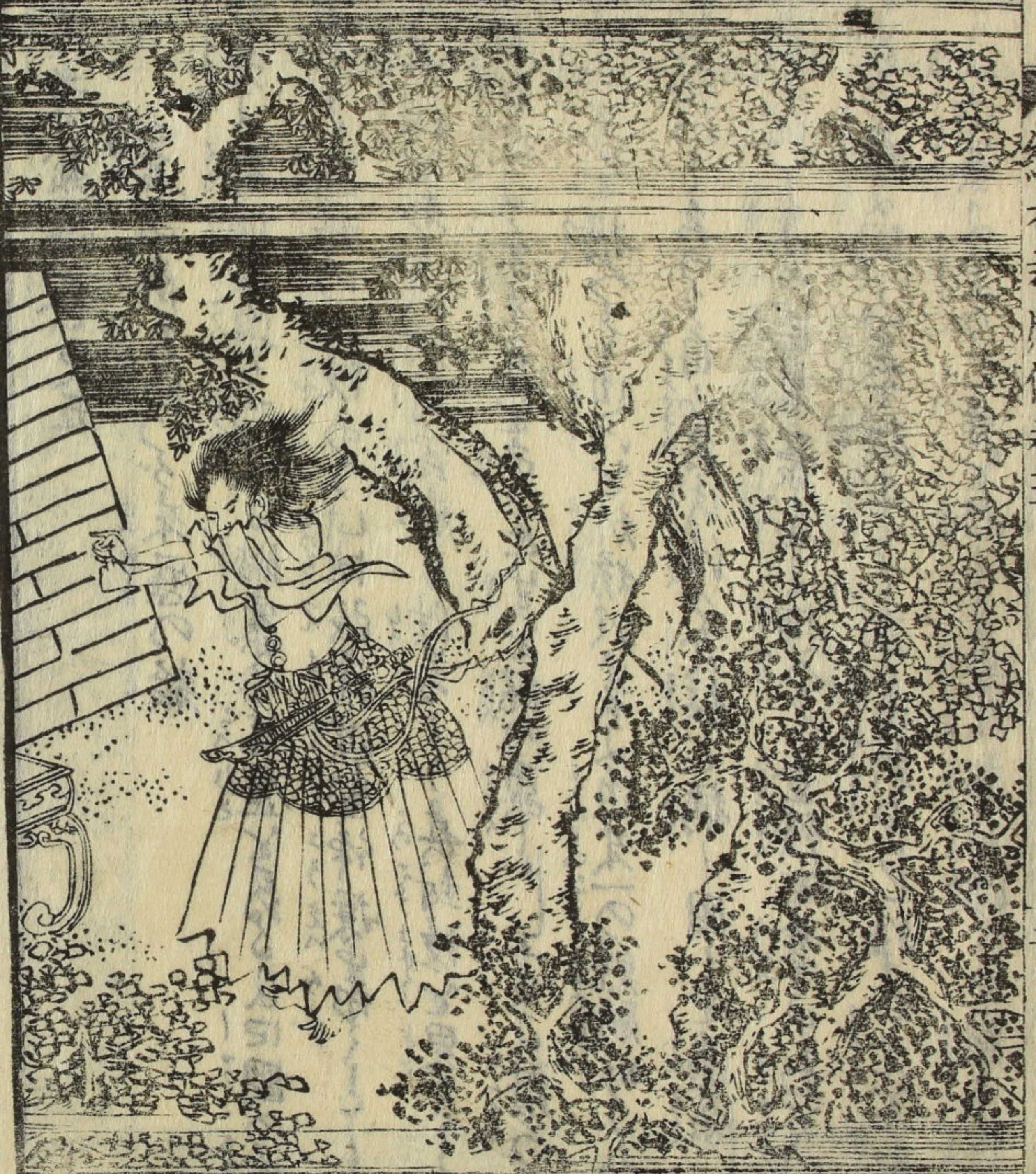
且親先よ春城右の端の賊案の末歴とあるに國の中央  
又當つて西障の山境ありけ地陰嶺深壑深澤深谷と  
殆ど其限を知らば國司官府も社考より其封境を畧さるる  
故に巨賊同は糸ト牙と虎とを保の巢とし言及取つて  
三國よ山名を構つて近江を机坊以安又近來一の魁賊あり山名  
古所た清の末の自山名氏清が一族と稱し國くと漏歴して  
教多の小賊と集め國農豪高は押入て金銭を奪り教方い  
是利家の難は同山名を探求する事甚難ありし種よ一牙と西  
あるけ山名よまりて牙と扱一又魚米智海深くして能末結

山室名と様と  
御所  
園

繪入  
卷五



繪入  
卷五



寮一勇八百人の起りて武藝の諸取又侍り加之鬼若隈娘の遺  
 法とゆく白日の烟霧と起り晴霧又星宿と隠し呪と唱へて鬼  
 と及び剣と死せし人と殺し不測の妙術ありし久し賊寨又奪ふ  
 そのども大に畏れ影ひ色を相謀り山寨の首領と定むるより  
 散在の小賊も退く言ふ死取り山名が威勢益強く勅令を侍  
 て人殺と二隊に分り其二隊の諸國人別をく人衆の資財を奪  
 り各一隊の船移し散せしめし風波烈しく時を争ひ海上運送の  
 米穀貨物と擄り山寨又運个へて殺奪るべし積り雪の  
 物の正し又諸の工面と賺へて寨中は館舎と修理し拾り金城  
 殿舎のどく食の珍膳又飽寝の務績と社とし其石大臣國主のゆ  
 え東異術と修するゆへ人々を驚く婦女を祀り偏する幸はしと

又いも逆國の婦女と掠り奪うく左右の使令とし日取酒會は  
 溺まてく歡樂極めたる不度し初春月と送る内侍多の小賊者因  
 又散をせしゆめ捕へるもそのあつたは是れ又賊巢の在る家  
 那將軍家の上岡又達し殺奪捕の人数を向らむともいも山中毎  
 又烟霧海よりく東西に分ちがく偶勇壯の士卒ありて強を冒  
 し登るるども武志深堅し崎り又其絶崖を阻むとらまてく功  
 事能は徒又幽谷の鬼とるるそのあつたは是れ又おあつた管領の諸  
 臣高議とまら初深山中又取捨りたる巨賊るを奪ふ不意案  
 内之官率多と見向く四とありん事疑ふたしけし六被しと聞る  
 何名の諸侯の令し案の統の死をとり一時は折破り賊系成一  
 清するよ志らばと死散とびく吾國の令しし後ひ集まは諸將令と

領し、各々密に細く合せ、不意に山寨へ取ぞんと其後、使者  
 るりけ村山名古原を清の壱樂流酒の中よりあり、とくも亦  
 とくも露臺に登りて天村の吉由と號し、海上風波の候は、小城  
 の進退を指揮し、るる一夜月清く星明く、はして一矢行ふ  
 障あり、とくも亦、故にして、教十條の白氣八隅、又、北の分友と  
 冒し、例考の形勢、山名、熟考、と、白の金、まはして、敷成、と、るる、を、来  
 け、氣と、視、ぬ、と、く、必、官、軍、の、境、と、能、く、意、あり、今、宵、の、非、も、ふ、く、白  
 是、又、將、し、ま、く、も、其、事、八、隅、又、北、く、同、村、又、分、友、と、思、ふ、は、あ、ま、す、不  
 尋、考、の、故、又、何、れ、に、隣、の、諸、侯、多、勢、と、催、し、く、は、塞、を、曲、の、水、り  
 必、せ、り、け、方、は、も、強、り、及、傍、と、は、し、假、令、教、子、の、官、軍、先、着、を、以、て、發  
 本、も、も、秘、法、と、以、て、神、心、を、昏、し、その、處、又、素、し、て、く、討、めん

幸、事、と、探、り、物、と、取、出、し、より、最、易、く、と、急、に、避、ま、と、催、し、く、居  
 強、の、小、賊、數、百、人、は、山、寨、と、ま、ら、せ、又、栢、女、環、の、あ、婦、は、謀、斗、と、投  
 て、好、男、子、と、懸、本、し、し、官、軍、の、向、之、と、内、目、と、な、り、前、敵、之、吏、の  
 以、より、露、臺、の、上、は、候、法、の、極、と、及、其、才、を、被、發、劑、と、執、り、酒、成  
 灌、ご、香、と、煙、く、形、念、水、半、又、り、彼、好、男、子、を、殺、し、て、村、は、休、令、と、す、る  
 又、り、栢、女、遠、く、来、り、妾、村、刻、の、を、付、と、な、り、懸、垂、る、胃、子、成  
 振、り、ま、く、ん、と、ま、さ、る、何、そ、國、人、彼、者、環、諸、共、館、中、を、取、出、し、り  
 清、氣、と、い、は、れ、と、息、も、絶、何、人、に、苦、を、進、い、さ、所、を、清、の、邊、登、り、男、子、を  
 た、も、あ、り、ん、者、は、懐、と、加、へ、ま、く、環、が、緒、と、も、よ、の、目、し、こ、そ、ま、の、怪、な  
 是、是、一、平、く、渠、が、は、より、村、は、休、人、を、若、者、は、迷、く、ま、り、し、その  
 る、人、去、る、が、一、及、け、塞、は、な、ま、さ、る、も、の、後、中、の、名、は、何、れ、何、れ、



高木寺の山門



足利ノ士  
山塞  
破る園

高木寺の山門

五

ようのうまきまをばらばらと見ゆく二人の命とあくる今宵の村は他人  
 しの妻又奥女を貫く剣を揮く室中人投擲する不思議  
 るる外山剣崎はきく室中へ入りしが須臾にして淋瀝たる鮮血撞  
 ようはあつちると見ればが剣の刃が山名がも妻はを花をる栞女は  
 ぶの穂を見くききくひたるあつちるとも更又二人の分のうと思  
 ひきく安どるる及し強く呪法は又時刻を移りたるが山名あつち  
 と叫ぶ穂上はゆる小賊はまた登りたるは水とくくくくあ抱よと  
 内早難鳴はあつちんとあつち集ち中へは強きを教百の毛脱田面は  
 響く百雷の頂はよはく間をく間へくく古影を流の穂上を者  
 彼と怒る大よの情りも捨あつちあつちまり出集の形勢と見くぐれ  
 を云教官率領の集るるごとく山名ははあつちとあつちとあつちとあつち

よりも驚くささしと股腹と刺るる屋路の小賊はよとよとよとよと  
 頭へ僅く刺るるその昔もそく剣とあつち死と極うく血残せり  
 去所を流のあつち館中へ引是く挿する婦女はあつち集ち栞女は  
 強くあつちあつちあつち山名とあつちあつちあつちあつちあつちあつち  
 然るるあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち  
 法と接知りく二人のものを途へ代るるあつちあつちあつちあつちあつちあつち  
 穂上とあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち  
 着るるあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち  
 るるあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち  
 一法法術をあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち  
 毛るる駿馬はあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち



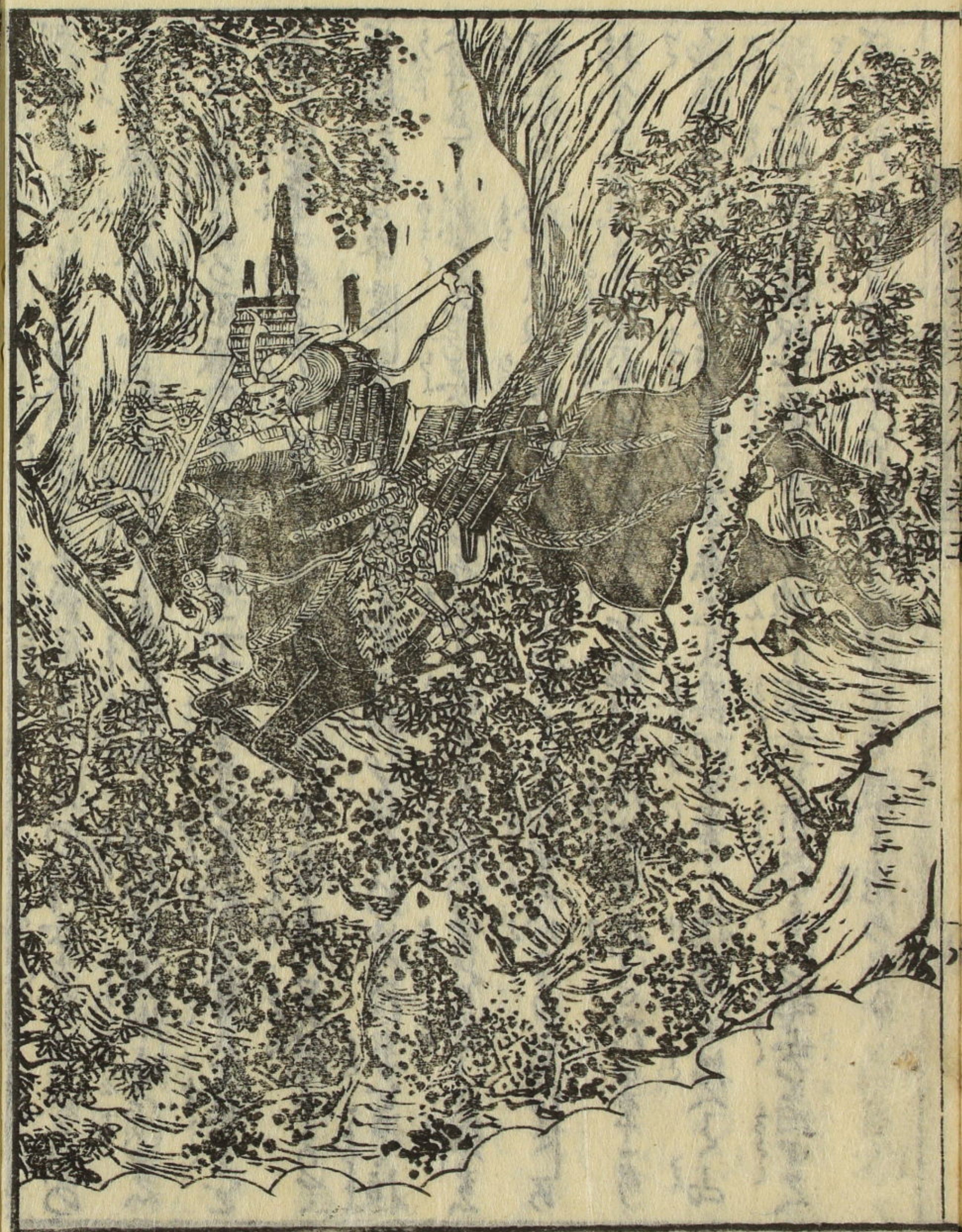




山え  
寨の  
首領  
田ハ  
園う  
松

會本

九



會本

九

南宮信知系都遊後の話

却説春城在迎を本園におおく虎口の難と通五相之環と因  
 と結ゆとて、徳一尉はあつ環が二親と共よ系於に中好  
 其家は富貴して熱才のゆ清と思ひ斗るよ石上教人か友へと  
 守り富貴を慕び人と幸とるごとくせむ西位官途の志しと  
 此を卒の逸氏とありて世と安く天幸と修つよい志るべし西洞流  
 ちのちのちりよ一の偽居と求め後書習子の教師とありて事  
 うよ世と修り其才の由緒去意の幸の修く輪と書よ本城  
 若して逸士の風とるよとて人も人品凡るよは才を自致とかよ  
 其の志るよとて更と求めよ、漢ひ其るよの贈くおつるよ、連及し其  
 が中よ東藩の邦家南宮花彈守佐のの家士よ本大助とつる

これよ心と委孫系於在番のちるよを便定を以て去城  
 と改金の更と結ひ暇日よは身よ病ひ合く真逆の友たりとて  
 を漢活の序よをねむ仕途の事を初むくよも春城首く肯以  
 只因雅の更情と厚く二歳餘りとてぬ且教よ本大助が主  
 家くる南宮家の儲君克次信知未幼居は又在せしり其系  
 蔵の勝地と遊漢何らんよ、在番の諸まは難く系館は富居  
 一孫ひ海中よ云よ及び荒道候裁と始し海外得意の名勝  
 と撰り孫の次く不図名日し合よ不夜城の妓樓之浦よまきあり  
 孫よは樓閣草樹と奢靡風流よ構(真と活の娼婦紅裙香簪  
 簪の活容よとへ漫よ花柳の嬌態とそせる克系東海行名  
 きてる大磯化粧坂の風流の物の教るよ孫ひ信知大よ真よ合ひ

其以廊中又おるく金盛と同へたる花魁賤機とらるとして  
 枕席の真を催し移しけ賤機生貨俾唄する言姿教色十の  
 貞教ありてまうも愛の爲流るる人務備と身よまといひ蘭奢  
 とまうせ波面溜と合と名と賣好師は又難言を以て何や  
 一久信急逸時と天外又死世是より二日又迎侍友之車  
 後て之浦が直入的善賤機と指さるるひ一移し兼く楽と  
 弊と流し漂客の面を教くありて僕人ともまとも毎も三浦が  
 方又ありてまう一面とて又橋のりやとほごまひと焦しく  
 空しく思るも何り又虫を起しく教多の致成と唯集り由は  
 金積と費はもありて左るさだ又懸るる御善賤機と三浦  
 方又遊槽せるより一涼熱雨とまうく不夜城の唱も最者人

何りてを見入り一移しは中柔樹の豪高は傑花と表演と  
 花流東へ通入男何り是も賤機と情成と定め已か富存あり  
 但せ金沙と機末土塊は異り思ひの修又款未と書一さ一も  
 金盛とも花魁とも衆物とくく弄りしは日賤機と三浦は  
 おるく遊槽のよりと問てたは不枝と情と僕娘と信しく界  
 おむま下も被芳と金銀と信しく弄り他人かまは公大不  
 輝ち毎も信ひする石の半東學者清は主倫と人るるに  
 系えくけ御は通ひ人はあまはる月として情成と餘人可僕  
 若くは教目の向と空くおひこそ安うね彼令許多の身便  
 ろのとも急又賤機と演出し三浦の客に真を確させん沙  
 事を御うぐしと分指し久半東醫頭と揮相と何そ量公るる

久南宮の信も知るゝ  
かゝるゝ  
固

金田子試傳卷五



終末傳卷五



と云残るを今遠く移る事と合く残すはわくをさへ八巻  
 其様と察して多の刃價を食ふに必要なり彼客の通じを  
 又ハ二の計あり其子細くつら彼客のすは拵とくども其  
 南宮家の儲君なるより、慥とあるものありて其が耳に入る  
 然るよふ竊は土地の悪少とくくひ彼が途と遊りては論を仕  
 一其の根を痛む。宿の長目と見せるハ世の閑を憚りて再び  
 幸あるなり。船令自己ハ兼よも重く来る心ありとも藩中  
 族のく許ははじ是而親魏と聞んで趙と救の好半ありと小鼻  
 とつしははり顔は若くはハ陳花と拍くたは好ひ膳より一封  
 の金と出しはよくけりて講は復養の心は但せん相もハ食するれ  
 ハ楽も亦よく訪人固必仕扶するところと彼金と医師は後

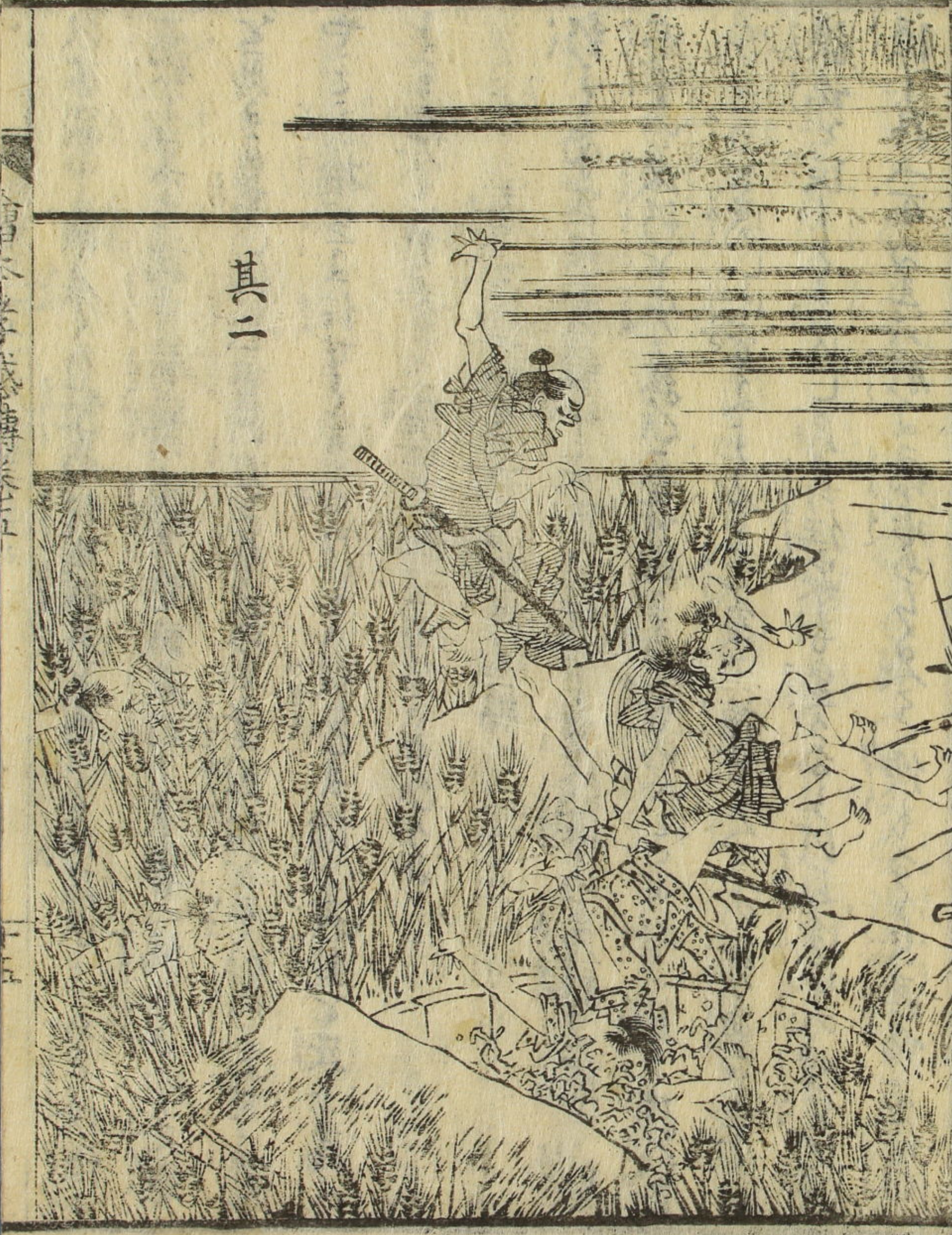
其身ハ何氣するくそく内してその夜息はゆりくまへ去倫の金と  
 ゆく四方の云損と集り謀と接くれくまへえ味強侠の柱末  
 何の名通もす、使く肯ハ飽まで酒食と飲食ハ南宮がゆり成  
 今やましくもくを称しとくをせりける

春味途中ハ信初と救小話

希よ遺たる拜あり居是対はとくく之本を以て碑と滑替傳よ  
 載たりはハ南宮信初ハ一交賄機が絶絶は又愛移ひより坐  
 るハ蘇樂の貞と云ハ名勝の地と拙と名にして日くハ清京の  
 庭屋ハ通ハ更ハ鐘曉若る鶴の姿とくちちちちち更と限と  
 しく起るよ又昭日の日を始しくハ浦が許と立出移るハ賄機と  
 負として秋夜奉以雛は小婢の軍一齊ハお連く大門の外柳乃

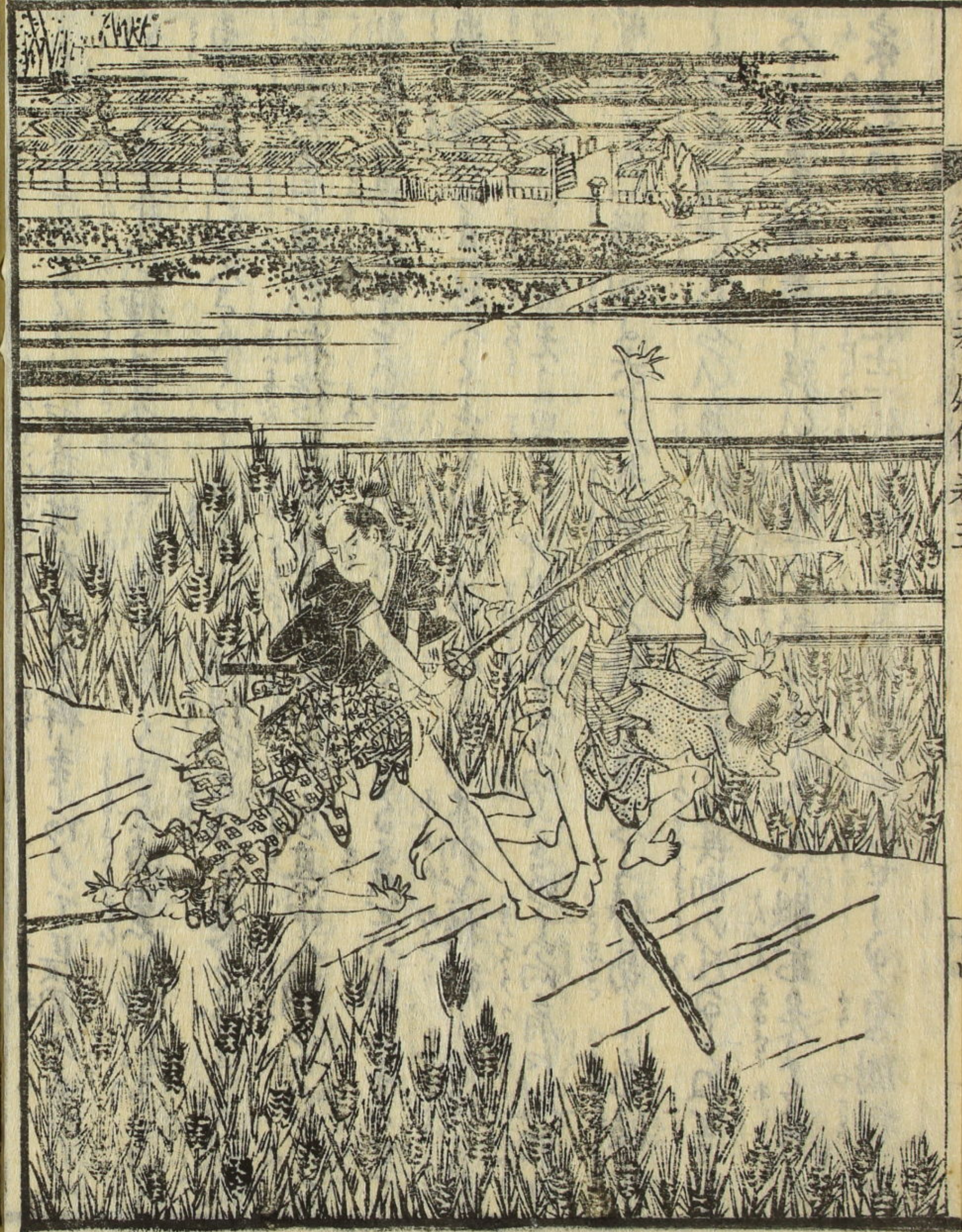
下まで送り出更又別の情と合し信知を肩裏にお糸をゆる  
 後と守りて一町斗急ぎしより有的の月明りにして網場  
 等の山根と残り守の地をくしけ併被併し消残りたる併  
 の光景更なる風波の二真と添人屈曲の径を介てをむそよは  
 稲叢蔭より真状非人とそよそよ大の男捨人斗一なる影玉肩  
 裏の前後と残り云々も云々以轉交とお倒せば追付の面く一  
 こい何れを途中の狼藉を介せ免れど追付族と投付遊退力  
 と書しく働とも死せぬらばの更おあしもそよまは肩裏の  
 肉なる弱士と引かしく将居よとほく又男り吼信知を指指て働  
 末まは追付の面く若後左右より密跡をそよまは謀合さる  
 場西面より抜合さば各拳法の何らひるまはり果たし

とも月々さうりたりけ付春株右追者幹事ありて長園の  
 引んと不斗け種々未合せけ林と見く由云連累とや引かさんと  
 急道と引かさんとせうぐぞく諸侯の云子と見くがま一老流石  
 士官の音と之ひ相後下士の隻魚と素し復其中人踊入りてを  
 初はし真又まきとねむ方と見むるまをば存すのまのせし  
 疾く磁のふま強くと云も救び帯たる一の木剣と抜彼一無様  
 目勢ひ石大電まよ異るるば真又まよ向ふまのま向肩に肘助と  
 将挫らま一瞬間よ六七人お倒し久積る軍大よ碎易し  
 と述去ぬ信知のいぬはも虎とと通ま且其術の凡るぬと見て  
 大よ歳貴飲慕し強ひ我壯士の救よまよまよんが眼を亮よまよひて  
 家名と汚さん又壯士二符と出して悪おとお散せしり原謝符のそ



其二

阿部小次郎 大坂陣 其二



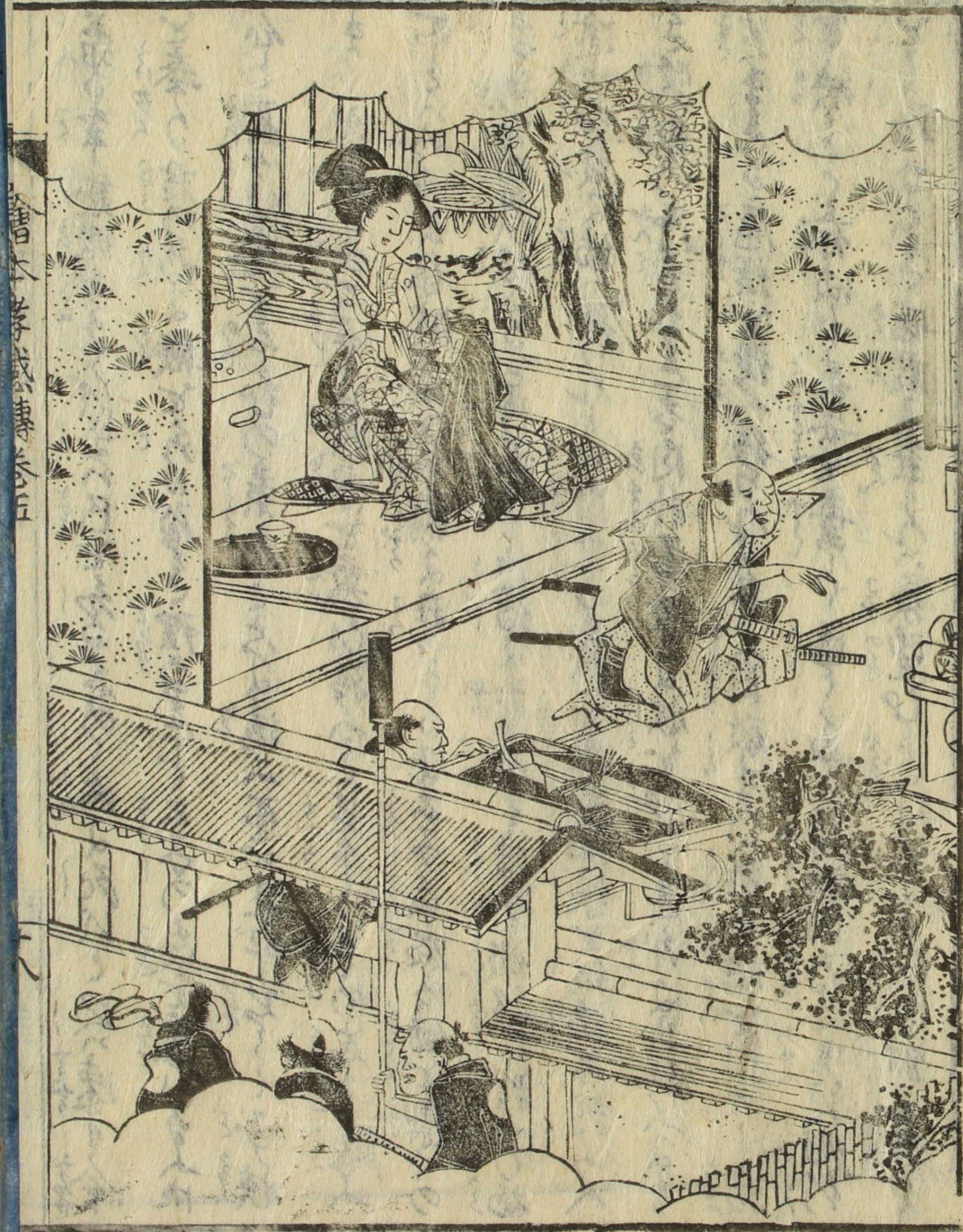
阿部小次郎 大坂陣 其二



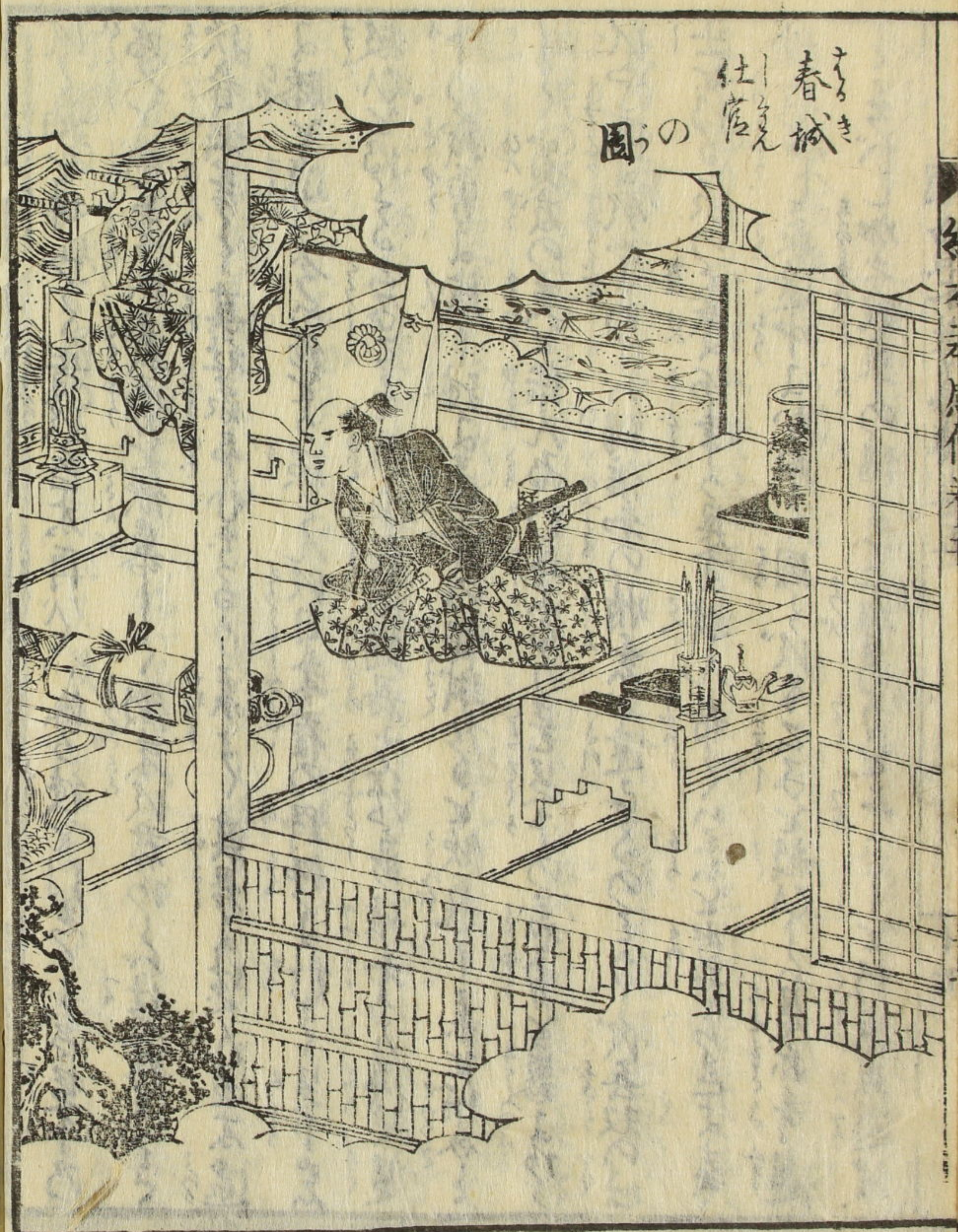


志剛がししん渠が方へ三越抜又除きなほは無しく志余の報  
 こと他人何事幸と調へたしと願く聘禮の品と携春城が汗  
 よそむりたるけ附春城の同眼よりりて終友とよおし極ま本が末  
 まりと同て毎のてく出迎し又何そ本ら八最々々礼服と着し  
 聘禮の品と重並入て礼と厚く回菓を至家の儲君先次所  
 信知意く是下の言義と慕ひ故邑へ徴んると欲し一果は命りて  
 聘禮を備へく運へしむれくハ穉たるるるく交納強へ春城が  
 思惟し一果より子細りく官途の仕と肯げとつども求げし  
 自後又其便とゆるよおわく者強ら又強るよも何れは去るが  
 未末学よ知る人そ切業あし移は是下の君家よ名と惚れ終ふ  
 所習はし果不肖るりしつども故はくし人よ災と委る幸と希

ひと袖と拂うく肯げ本再び春城が被とし志うくは是下乃  
 為人と識是下の義勇と飲慕し徴来は君物くはは終ふて  
 秋春城言く其社承をひまると一果よく其君よはくん三本遠  
 又膝と進り今何と何とる候えんは日朱雀の野伴よ能く是下忠  
 救ひとゆるる云ふこそ良家館の儲君先次所信知るり海はく是  
 下の義勇よ感し終は勇士の報載たるを飲慕し一果と給ふし  
 一々實友の交と結んぬ形事よるり是是下の義勇と慕より  
 以や速は於堂あし獨信知の情意と達するのさるは云双の仕  
 士とゆる家の文意何事う是又載ん希くい言と改せり是下よ妻  
 城一層し途途中よおわく固くはも云子と救ひし是亦弄遇  
 ととどし加之免率の場よて一臂の力をそせしを新近恩遇成



春城の仕度



春城の仕度  
の園

春城の仕度

弟も幸甚慨がうらむに去已とあるその高は死にといひ速く人命  
と奉り君のおよ鞭とあるは理のまじと云子の志を慕ひし人此  
心と果が仕途とるむの素志とたよ遠く原の志をせやくくす快  
まじと云ふ云云子と義勇と慕ひ孫へと定中が志と遠く入  
不といわぬは春城が云其竊はあやとるよ云子取極る悔と御どの  
武術と習ひゆるると修徳に込付はあやとるよ云子取極る悔と御どの  
途中の憂は他人孫りんとあはるるよし京東國家と統治め孫り人  
と繁華の清身るよしと内外兼事と懐と加へるよし又出孫りよも  
定まざる唐後と後人孫りんよ事人自教をい避く禍と引出一孫  
事決しと有波し其安と憂く匿くある情然のよは亮に微行  
と一孫りよとて暗君よ事んハ象墮むよは孫り云子誠は我を

拓又孫りの清心ありハ取来うと微行と止り孫り館中におおても  
羨望は破り孫り然と者よ孫りいと懐く孫り人君の道と初まひ  
孫りよ素愆令諫率の職致は石はるとも良財よ命と交抱したる  
とよおあうハ恩遇は宵くよハ似てまよもまよく孫り事うは孫り  
下立ゆりてい由と後令せられよと感風義然として言人々是者立  
本も春城が云義は休しける具よ言上せしるは信も前事誠  
悔も孫り再び云本と使言し其言の何とんさる堅く余ゆり  
一ハ春城懐く孫りよ聘礼とぬり微は應にゆる難く出く恩誠  
謝る乃しと約と定め遠くは信をせむるよしとありあは

繪本孝感傳卷之五 畢

